

地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 人文学部
氏 名 江成 幸

活動テーマ	「多文化共生」を基軸とした持続的コミュニティ構築の支援活動 ～ “笹川モデル” の実現に向けて～
実施期間	平成 23 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>四日市市笹川地区は、南米日系人住民の増加に伴う「多文化共生」のまちづくりに取り組んでいる。最近ではさらに、少子高齢化や防災への対策も急務である。このような地域の機運に応え、人文学部の研究チームでは、中長期的なコミュニティ再編に資する基礎データの収集・分析を行った。</p> <p>まず、日本人住民へのアンケートを前年度末に準備し、5月～6月に四日市市と共同で、戸別訪問による協力依頼を行った。その結果、7月末までに約400人から回答を得ることができた。9月からはブラジル人対象のアンケートに着手し、年度末までに約200人から回答があった。</p> <p>住民アンケートと平行して、笹川地区多文化共生推進会議の傍聴や、自治会役員、小中学校長、集合住宅管理者であるURへの聞き取り調査を行い、地域との信頼構築に努めている。</p> <p>実施体制は、三重大学人文学部から江成幸（准教授）、藤本久司（同）、福本拓（研究員）が参加し、四日市市側の連絡調整を市民文化部文化国際課多文化共生推進室副参事の加藤正義氏が担当した。また現地調査の際は、同課の多文化共生モデル地区担当コーディネーターである関島博氏と東森さおり氏に協力をいただいた。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>調査の中間的な分析結果については、四日市市および笹川連合自治会にフィードバックしている。11月には、福本研究員が四日市市議会産業生活常任委員会において、日本人住民アンケートの中間報告を行った。委員からは、三重大学の「地域問題としての多文化共生」というフレームワークに高い関心が寄せられ、報告に対し1時間半におよぶ活発な質疑が行われた。</p> <p>また、特に教育問題に絡んで、教育委員会より専門的見地からのアドバイスを求められ、同地区で自治会・教育委員会の間で定期的開催されている共生会議教育部会にアドバイザーとして出席し、意見の集約や課題の呈示といった点でも貢献している。</p> <p>こうした関係者との情報交換を通じ、人文社会科学分野で三重大学への期待が大きいことが実感された。今回の住民意識調査を第一歩として、</p>

来年度も連携を継続し、地域社会の変化に応じて持続可能な、また日本人住民にも外国人住民にも開かれた“笹川モデル”の具体像を地域の人々と共有し、検討していきたいと考えている。

(3) 共同実施者との連携状況

活動期間中は福本研究員が、四日市市の「多文化共生推進プラン」に精通した加藤氏と綿密に連絡を取り合った。年度途中からは、前述(2)の教育部会アドバイザーを引き受けるなど、四日市市との協力関係を築くことができた。

なお活動の展開にあたり、三重大学四日市フロントの伊藤幸生氏から、市役所とのコンタクトや地元NPOの紹介等のバックアップを受けた。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

アンケート調査および学校での聞き取り調査には、人文学部文化学科4年生と卒業生が参加した。おもに教員・公務員を志望する学生たちであり、地域の多文化共生を実地に学習する機会になった。このうち何名かは、笹川地区で外国人対象の学習支援ボランティアにも参加し、学年末に「多文化教育」をテーマとする卒業論文、修士論文を提出した。

研究チームとしては、日本人住民アンケート結果の一部を11月に学会発表したほか、藤本教員が3月発行の論文の中で、笹川在住ボリビア人の事例を紹介している。平成24年度には、ブラジル人住民アンケートの結果と合わせて報告書を作成するとともに、学会発表、学術雑誌・大学紀要への投稿を予定している。

(5) イベント等開催実績(名称、実施場所、参加人数等)

地域貢献の初年度にあたり、四日市市および地域住民の問題関心に沿った内容で、「笹川地区における多文化共生に関する実態調査」を実施した。(1)に述べた通り、地域貢献活動支援予算により、笹川地区全体をカバーする規模で戸別配票を行い、当初目標のアンケート回収数を達成することができた。